

報道発表

2017 年 11 月 30 日

シリーズ A ラウンドで総額約 12 億円の資金調達を実施

がん領域に特化した研究開発型創薬企業 Chordia Therapeutics 株式会社は、シリーズ A ラウンドにおいて総額約 12 億円の資金調達を実施

がん領域に特化した研究開発型ベンチャー企業である Chordia Therapeutics 株式会社(以下、当社)は、このたびシリーズ A ラウンドにおける第三者割当増資により総額約 12 億円を調達したことをお知らせいたします。本資金は、当社の主要アセットである CDC 様キナーゼ(以下、CLK)阻害薬の臨床開発や、その他の前臨床アセットの研究開発を行うために用いられます。このシリーズ A ラウンドは、武田薬品工業株式会社(以下、武田薬品)と京都大学イノベーションキャピタル株式会社(以下、京都 iCAP)によりリードされ、三菱 UFJ キャピタル株式会社、SMBC ベンチャーキャピタル株式会社も参加しております。

上記に加えて当社は、武田薬品より充実した研究開発サポートを受けます。なお新たな取締役として、武田薬品グローバル R&D 財務ヘッドであるネナード・グルムサ氏、京都 iCAP 投資部プリンシパルである上野博之氏が選任されています。

当社は、武田薬品の湘南ヘルスイノベーションパークに入居し、事業を開始しています。2017 年 11 月 21 日に武田薬品およびベンチャーキャピタル投資連合との間に投資契約を締結しました。武田薬品とベンチャーキャピタル投資連合はこの契約に基づき、シリーズ A ラウンドに参加いたしました。当社代表取締役である三宅洋は、「京都大学から提供される最

先端の科学技術と創薬を専門とする私たちの知識を組み合わせ、がんと闘う患者さんに画期的な治療薬をお届けすることが、当社の使命です。武田薬品と日本の主要なベンチャー投資家の皆様のおかげで、CLK 阻害薬のプログラムを臨床開発に最速で進めることが可能になります。」と述べています。

当社は、アンメットメディカルニーズの高いがん治療薬の研究開発を強力に推進していきます。三宅洋は、「京都大学医学研究科の小川誠司教授らにより、様々ながんにおいて、細胞の生存に重要なプロセスであるスプライシングに関連する遺伝子に変異が発生し、細胞のがん化が起こることが発見されました。CLK はスプライシングを調節するキナーゼであることから、今後、私たちの CLK 阻害薬が、スプライシング関連遺伝子に変異のあるがんに罹患されている患者の皆様にも有効なのかどうかを検証していきたいと思っております」と述べています。

なお、詳細については、<http://www.chorditherapeutics.com>にてご確認ください。

以上